

■橋本英吉 小説家。プロレタリア出身で、弾圧を受けて転向するも、孤高保って傑作を書き続けた。

はしもとえいきち

子規句歌革新1898＝ 福岡県で、父が木挽き・母が百姓・兄は左官の弟子という家に生まれる。

日比谷公園・1903＝ 5歳：父が死去したため、叔母の縁家先の養子となる。

日露戦争終・1905＝ 7歳：

韓国反日暴動1907＝ 9歳：

小学校卒業後、豆腐行商・郵便局員などを経て、炭坑夫となり、

明治天皇没・1912＝14歳：

遠賀川流域の諸炭坑で働くうち、

民本主義・・1916＝18歳：

原敬首相暗殺1921＝23歳：

水平社結成・1922＝24歳： 既に上京していた友人の青年僧から誘われて上京、共同印刷のモノタイプ工となり、

労組幹部だった徳永直とも知り合うが、

治安維持法・1925＝27歳：

円本時代始・1926＝28歳： 徳永が「太陽の無い街」に描くことになる大争議に敗北して失業、結婚した妻の看護婦の働きに支えられながら、小説を書き、文学書を読み漁るようになる。

金融恐慌・・1927＝29歳： 同郷のよしみで指導を受けていた横光利一の紹介で『芸春秋』の事務員に採用されたが、

共産党事件・1928＝30歳： \*林房雄の紹介で『前衛』に『棺と赤旗』を書き、以後、『戦旗』に小説を発表し始め、退職して作家となる。

海軍軍縮条約1930＝32歳： 逮捕された立野の後を受けてナルプ書記長となったが、

満州事変・・1931＝33歳： 共産党員となり、

五一五事件・1932＝34歳： 宮本百合子検挙翌日、党資金の件で彼女を訪ねたことから、第五回作家同盟大会会場で検挙されると、転向を表明して釈放され、留地場で身体を壊したこともあって、妻子とともに妻の郷里伊豆に退く。以後、道路や河川工事の土工をして一家を支えながら、

帝人疑獄事件1934＝36歳：

芥川直木賞始1935＝37歳： \*長編『炭坑』ほかを書き続ける一方、工事に関係して内務省の役人を河中に投げ込んで留置されたり、共産党員を匿って密告されたりした後、

二二六事件・1936＝38歳： 再び上京、警視庁の監視のもと、

日中戦争始・1937＝39歳：

第二次大戦始1939＝39歳： 小説集『衣食住その他』、長編『坑道』、

大政翼賛会・1940＝40歳： 小説集『樗の芽立ち』『四季の感情』『草上の饗宴』、

日米開戦・・1941＝41歳：

・・・・・1942＝44歳： 長編『系図』、

創価学会検挙1943＝45歳： 小説集『悪魔と情熱』『柿の木』などを刊行、\*反戦文学の傑作ながら戦後も無視された長編歴史小説『忠義』を刊行、弾圧の目をくぐり抜けたが、

年金+総武装 1944＝46歳： 義姉から聞かされた野中到の話に感動して『富士と水銀』を書くも、検閲で発表できず、

敗戦・・・・1945＝47歳： 住居が強制疎開となったため、家族を伊豆に疎開させる一方、横光の家に彼の疎開後も留まり、<敗戦>後伊豆に引揚げた後、

新憲法施行・1947＝49歳： 発表して野中の生存を知るや、逗子に独居していた80の野中を訪ね、

極東裁判判決・1948＝50歳： 『マルクスの微笑』に続いて、

三大事件・・1949＝51歳： \*GHQからもナショナリズムを煽るものと注意された『富士山頂』として刊行した。

独立回復・・1951＝53歳：

メア-事件・1952＝54歳：

安保闘争・・1960＝62歳：

タイタイ病始・1961＝63歳：

大阪万博・・1970＝72歳：

石油ショック1973＝75歳：

成田衝突・・1978＝80歳： 没した。